

# のびやか

# 57号



## 第13回青い鳥夏まつり

平成12年の東海豪雨を機に地域の方との交流を目的に始まった「青い鳥夏まつり」が、平成25年8月25日（日）に行われました。当日はあいにくの空模様でしたが、たくさんの方に来場していただき、近隣の福祉施設や地域の方々と交流することができました。

### 大規模災害時における支援協力について

8月20日に地域と事業所が一体となって進める「防災安心まちづくり運動」に基づき、中小田井防災安心まちづくり委員会と、災害時における支援協力に関する覚書を締結しました。



## 目次：

「障害者スポーツ」	2～4
入所部門	4～5
卒業生からの手記	5
事業所紹介	6～7
読書コーナー	7
掲示版	8

## 「シリーズ「障害者スポーツ」」3

青い鳥医療福祉センター 療育支援課長 筒井恵二

シリーズ「障害者スポーツ」第3回目は、国内での障害者スポーツ大会等についてお話しさせていただきます。障害者スポーツ大会は、県内の障害者を対象に県が主催し、複数の競技を同時に行うものと、競技団体等が主催する単独競技の大会等があります。また、全国規模で開催されるものや世界規模で開催されるものも多くありますが、今回は、愛知県障害者スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会を中心にします。

### (5) 愛知県障害者スポーツ大会

現在、都道府県が主催する障害者スポーツ大会の前身である身体障害者スポーツ大会は、昭和38(1963)年、パラリンピック東京大会の前年、厚生省社会局長通知(5月20日付、社発第370号)として各都道府県知事・指定都市市長宛に、身体障害者スポーツの振興を積極的に進めること、またそのためにスポーツ大会の運営費に対し予算補助を行うこと等の通知されたことにより、ほとんどの都道府県が同年より県大会を実施するようになりました。

愛知県でも時期を同じくして、身体障害者スポーツ大会が開催されるようになりました。

また、平成に入り知的障害者のスポーツ大会も開催されるようになりました。そして、平成13年、国が全国大会で身体と知的を統合した全国障害者スポーツ大会を開催することとなったのを契機に、愛知県でも身体と知的を統合した愛知県障害者スポーツ大会に衣替えをしました。

愛知県障害者スポーツ大会で選手のエントリーが最も多いのが豊田市運動公園陸上競技場で開催される陸上・フライングディスクの大会で、例年、5月中旬頃に2日間の日程で行われます。併せて盛大に開会式も行われます。大会の開催にあたっては、毎年地元ボランティア、ボーイスカウト、ガールスカウト、学生等の多くの人に協力して頂いています。今年度からは、「ふれあい広場」も開かれお店や遊

びのコーナーが人気を呼んでいました。

その他、愛知県障害者スポーツ大会として開催されている競技は次のとおりで、今年は全体で約1,400名の選手がエントリーしました。

- ・ソフトボール・ボウリング・水泳・卓球
- ・サウンドテーブルテニス

なお、これ以外の主な県大会としては、以下の大会があります。

- ・愛知県視覚障害者卓球大会
- ・愛知県車いすテニス大会
- ・愛知県車椅子バスケットボール競技大会
- ・愛知県グランドソフトボール大会
- ・愛知県身体障害者アーチェリー大会
- ・愛知県身体障害者ゲートボール大会
- ・愛知県身体障害者グラウンドゴルフ大会
- ・愛知県ボッチャ競技大会



ふれあい広場



グランドソフトボール

### (6) 全国障害者スポーツ大会

平成7(1995)年に決定された「障害者プラン」では、それまでの身体、知的、精神と別々に行われていた施策を統合して行うこととなりました。また、

国際的な動向として、従来行われていた身体障害者のスポーツ大会に知的障害者も参加するようになってきました。

このような状況下、平成10(1998)年4月より3回にわたり開催された厚生省事務次官による私的懇談会「障害



豊田市運動公園陸上競技場

者スポーツに関する懇談会」において、「現在別々に開催されている全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピックについて、21世紀の初頭を目途に、競技性も加味しつつ統合実施を行うべきである」と報告されました。

厚生省ではこの報告を受け、平成13(2001)年に開催される宮城大会より両大会を統合して実施する旨を障害保健福祉部長名で各都道府県知事・指定都市市長宛に通知しました(平成10年7月16日付)。

また、財団法人日本身体障害者スポーツ協会では、「全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピックの統合に関する検討委員会」を組織し、平成10(1998)年8月より5回にわたり会議を行い、円滑な大会運営の推進に必要な各種事項について検討しました。

そして平成13(2001)年より、昭和40(1965)年より36回にわたり開催されてきた全国身体障害者スポーツ大会と、平成4(1992)年より8回(第4回大会中止)にわたり開催されてきた全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)が統合され、新たに「全国障害者スポーツ大会」として開催されることとなりました。

なお、この全国大会を開催するにあたり、全国身体障害者スポーツ大会及び全国知的障害者スポーツ大会で実施した競技種目や参加者数について、当面は現状を変えないということでした。

しかし、身体と知的は統合されたものの全国大会の開催基準要綱では、国が認定している障害者のうち、精神障害者と内部障害者が参加不可能となっていました。このうち、精神障害者は第1回全国大会からオープン競技としてバレーボールを実施しており全国大会に正式競技として取り入れる時期に来ていたこと。また内部障害者は、全国の障害者スポーツセンターなどで医学的な指導のもとスポーツ活動が見られることから、協会医学委員会から競技会への参加について一部導入してもよいのではないかとの意見が出されるなどし、全国大会の見直しを求める機運が高まってきました。

そこで、上記内容を踏まえ精神障害者と内部障害者が参加できる競技種目の導入を前提に、開催基準要綱の改正について協会、厚生労働省、関係団体、学識経験者による検討委員会が開催され、次の事項が決定されました(平成20年度に開催される第8回大分大会より適用)。

- 1.精神障害者のバレーボールを正式競技として実施する。
- 2.内部障害者の参加については、まずは、ぼうこう又は直腸機能障害者の個人競技への参加を認める

こととした。

これにより、第8回大分大会から、身体、知的、精神の障害者が一部の競技ではありますが参加できることになりました。

開会式



この大会で実施される競技は、以下のとおりです。

[個人競技]

- ・陸上(身体、知的) ・水泳(身体、知的)
- ・卓球(身体、知的) ・ボウリング(知的)
- ・フライングディスク(身体、知的)
- ・アーチェリー(身体)



陸上



卓球



フライングディスク



水泳

[団体競技]

- ・バスケットボール（知的）・車椅子バスケットボール（身体）・ソフトボール（知的）
- ・グランドソフトボール（身体）・バレーボール（身体、知的、精神）・サッカー（知的）
- ・フットベースボール（知的）

※（ ）内は、対象となる障害



車椅子バスケットボール

会を実施して、愛知県選手団の選手を決定しています。また、団体競技は、それぞれの競技団体で地区ブロック予選を行い、勝ち上がったところが参加します。

なお、これ以外の主な全国大会としては、以下の大会があります。

- ・ジャパンパラリンピック競技大会
- ・日本車椅子バスケットボール選手権大会
- ・全国身体障害者アーチェリー選手権大会
- ・全国車いす駅伝競走大会
- ・全国身体障害者スキー大会
- ・日本パラサイクリング選手権
- ・大分国際車いすマラソン
- ・全国ろうあ者体育大会

※引用文献 障害者スポーツの歴史と現状（平成24年12月発行） 公益財団法人日本障害者スポーツ協会編

愛知県では、毎年全国大会に個人競技で出場を希望する選手の募集を行い、応募者を対象にした選考

全国障害者スポーツ大会 年表

回	西暦	期 日	開催県	スローガン
1	2001	10月27日～29日	宮城県	「翔く・新世紀みやぎ大会」感動体感2001
2	2002	11月 9日～11日	高知県	「よさこいピック高知」みつけて夢 活かして力
3	2003	11月 8日～10日	静岡県	「わかふじ大会」静岡でかなえよう夢 つたえよう感動
4	2004	11月13日～15日	埼玉県	「彩の国まごころ大会」ともに感動！ ともに笑顔
5	2005	11月 5日～ 7日	岡山県	「輝いて！おかやま大会」あなたがキラリ☆
6	2006	10月14日～16日	兵庫県	「のじぎく兵庫大会」はばたこう ともに今から ひょうごから
7	2007	10月13日～15日	秋田県	「秋田わか杉大会」きっと出会える！夢と感動
8	2008	10月11日～13日	大分県	「チャレンジ！おおいだ大会」笑顔、元気、ともに未来へ 新たな一歩
9	2009	10月10日～12日	新潟県	「トキめき新潟大会」トキはなて 君の力を 大空へ
10	2010	10月23日～25日	千葉県	「ゆめ半島千葉大会」ゆめ半島 みんなが主役 花咲く笑顔
11	2011	10月22日～24日	山口県	「おいでませ！山口大会」君の一生けんめいに会いたい
12	2012	10月13日～15日	岐阜県	「ぎふ清流大会」輝け はばたけ だれもが主役
13	2013	10月12日～14日	東京都	「スポーツ祭東京2013」東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート

**入所部門**

**医療型障害児入所施設・療養介護事業所「たんぽぽ東棟」**

たんぽぽ東棟では、30名の利用者さんが生活されています。学校に通っている学童を除く27名の成人利用者さんが、6つのクラブに分かれ、月に2回のクラブ活動に取り組んでいます。

音楽、製作、体操、調理、社会、文化の6つのクラブに利用者さんの希望、好みや能力に合わせ分かれてもらい、担当のスタッフとともに、継続性を持った活動に取り組んでいます。



○製作クラブ；その名の通り製作を行い、作品を掲示したり遊んだりしています。



○体操クラブ；音楽に合わせた体操を行うことで、リラックスと機能の維持に取り組んでいます。



○文化クラブ；園芸や茶道を通じ、文化的活動に取り組んでいます。



○社会クラブ；ゲームや“ごっこ遊び”、外出を通して他者や施設外との社会との関わりを促しています。

○音楽クラブ；ピアノの演奏に合わせて、楽器を演奏したり身体を動かし、音楽を楽しんでいます。



○調理クラブ；季節に合わせた調理を行い、食を通して季節を感じる活動を行っています。

クラブ活動以外に、季節の行事や、春・秋2回の遠足、グループごとでの日常の療育を行い、利用者さんの生活の充実に取り組んでいます。  
(保育士 太田)



## なのはな棟 卒業生からの手記 「～自立に向けて～」 その2

### 「後悔と反省」

こんにちは。マッピーです。

青い鳥を出てもう9年？になり、現在27歳になってちょっとずつ、看護師さんとか職員の言っていたことがわかりはじめました。

僕にしたら遅いと感じましたし、もっと早く気づけば後悔しなかったと思っています。人との信頼関係とかの大切さが今になってわかりました。

でも、僕は友達が少ないし、人間関係もうまくないので今でも苦労しています。

「どうやったらうまくいくのか？」「なにかから話せばいいのか？」と毎回思いながら話しています。青い鳥にいた頃から、話すのは苦手です。ずっと部屋で音楽を聴いていました。まあ、音楽はなくてはいけないものだし、今でも友達です。

青い鳥にいた頃は、文字盤を使って話していましたね。懐かしい思い出です。今は文字盤がなくても話せばわかる人はわかるので楽ですし、わからなければ工夫すれば会話できます。

AJUに入ってから文字盤を使わないで話していました。施設にいると言わなくてもやってくれるのでありがたい気持ちもあるけれど自分のためにはならないと、AJUに入ってからわかりましたね。

自分がやってほしい事は言わないとわかりません。もし、わかったら神様だと僕は思っています。なんで、当時は「わからなかっただろう」と後悔していますね。自分からアピールすることの大切さも身をもってわかりましたし、文章では、偉そうに言っているけど、今でもできていないので頑張っている途中です。少しずつ慣れてきました。なんでもそうですが努力しないとできることもできなくなります。

なので、できる人には自分で言うまではやらないほうがいいと思いますし、べつに食事とか1回抜いても死ぬ事はないのでやらせることが大切です。時間がある時はね。もし、行きたくない人がいたら無理に学校も行かなくてもいいと僕は思っていますね。自分で選択した答えなので、若いうちに後悔と反省等をさせることもひとつの勉強だと僕は思っています。いろんな経験をもっとさせてあげてください。僕みたいにはなってほしくないのです。これが自立の一步だと思っています。

阿部 真澄



## 地域の事業所紹介 Part14

### 「えんでこ」(NPO法人 暮らし応援ネットワーク) (児童発達支援事業・放課後等デイサービス) 訪問記

今回は、あま市にある「えんでこ」(児童発達支援事業・放課後等デイサービス)を訪問させていただきました。「えんでこ」とは、歩いて行こうという意味で、人と人がであり、共にゆっくりあゆんで行きたいとの思いをこめて名づけられています。

管理者の吉川公代さんに、お話を伺いながら、午前中の就学前プログラム(児童発達支援事業)を見学させていただきました。利用される子どもたちの個性を重視し、一人一人に合わせた療育目標や課題を保護者の人と一緒に考えながら、プログラムを設定し支援をされていました。そのため、1日あたりの利用は5名までの対応となるそうです。見学当日は、2歳から4歳までのお子さんとお母さんが一緒に4組参加していました。朝の会では、みな元気よく行進し、どうぶつ体操、あいさつ、手遊びを行ない、主活動の工作では七夕の飾りを制作していました。きれいな千代紙を思い思いにちぎっては、織姫さまと彦星さまの衣装にみたてて貼り付けていました。お母さんと職員の方々が、それぞれのお子さんができることを手伝いながら、可愛らしい飾りができあがっていました。

利用されているお子さんたちは、他の母子通園施設や保育園、幼稚園に通っている方々もいて、年齢や個性、ニーズも様々なため、お子さん単独で参加できる曜日を設定していく予定があるそうです。また、送迎サービスも行っていて、あま市だけでなく近隣の市町村からも通われているそうです。

15時からは、学童期プログラム(放課後等デイサービス)が、月曜日から土曜日までは設定されています。1日の定員は10名で、特別支援学校や特別支援学級に通う児童が利用されています。学童期プログラムも就学前プログラムと同様に、それぞれのお子さんに応じた個別支援プログラムに基づいて療育が提供されています。遊びだけでなく、着替えや食事、排泄など日常生活場面での自立を促すための取り組みや、お子さんの発達や学校での状況にあわせて、宿題などの学習をする時間を設定することもあるそうです。送迎は、えんでこの近くにある養護学校のスクールバスの乗降所や地域の学校までお



「えんでこ」では、お子さんの状況を把握し特性に応じた目標を設定して、それをお母さんと共有していくために、母子で参加されることが多いそうです。現在は、週4日(火・水・木・金)開設されていて、おおむね週に3日利用していただけになっているそうです。



迎えにいき、終了後は自宅まで送っていくサービスを提供されています。学童の送迎も、あま市だけでなく近隣市町村まで対応していらっしゃるって、現在40名ほど利用登録されているそうです。放課後デイサービスは、1日10名の利用定員となっているので、それぞれの利用者さんの要望を受け日程の調整をしているとのこと。多くの利用希望があること、また、肢体不自由のお子さんや発達障害のお子さん、重症心身障害児の方など、様々なお子さんに対応をされているので、今後は新し

い事業所を開設して、お子さんの状態に合わせてサービスを提供できるようにしていく計画もあるそうです。

それぞれのお子さんの年齢や状態など様々なニーズに応じていこうとする職員の方々の熱意が伝わってくる見学でした。また、それぞれのお子さんの個別特性をとらえて、個別のプログラムを提供することを大切にされていると感じました。

「えんでこ」という名前の由来のとおり、お子さんやお母さんたちに寄り添って、それぞれのあゆみに

に歩調を合わせて歩いていきたいとの思いが、とてもよく伝わってきました。

(療育支援課 西口)



### ★しゅうがくまえプログラム★

- 10:00 とうえん  
自由遊び、片付け、トイレ
- 10:20 朝の会 (導入遊び・健康チェック)
- 10:50 設定保育
- 11:50 トイレ、手洗い、昼食準備
- 12:00 昼食、はみがき
- 13:00 自由遊び・個別療育
- 13:45 帰りの会
- 14:00 こうえん



### ★お問い合わせ★ 「えんでこ」

住所；あま市森山弁才天80番地

電話；052-414-4781

FAX；052-414-4782

## 読書コーナー

### 「大切なことに気づく24の物語」

～読むだけで人生がうまくいく「心のサプリ」～

出版社；フォレスト出版  
中山和義

ふだん読書の習慣のない私の75歳になる鹿児島島の母から「元気になる本を見つけたからぜひ読んでみて…」と電話が入り、その3日後に我が家にこの本が届きました。パラパラめくってみると、所々に線がひかれて母の字で書き込みがされていました。24の物語は「大切なことを忘れそうになったときにあなたを助けてくれる物語です。」と書かれていました。

本の中に「あなたには人気があるしお金もいっぱい稼いでいる。楽しい事ばかり起こるからいつも笑ってられる。私には嫌な事ばかり起こるからあなたのように笑ってられない。」という言葉があり、“笑っているから良い事があるんです。幸せの文字の中に辛いという文字があるのに気が付きましたか？”という問いかけがありました。笑っていると良いことがあるって思えてきました。

不思議とあたたかい気持ちになります。

落ち込んだ時、悩んだ時にすすめの一冊です。(看護師 川島)



